



平和資料館 草の家 だより

No.114

2012年4月27日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@ma1.seikyoin.ne.jp http://ha1.seikyoin.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori

次の世代、そのまた次の世代にツケを回したくないなら...

平和資料館・草の家 理事 玉木瑞枝

2012年3月11日。あの東日本大震災から1年。高知市内丸の内緑地に県下から約1100人が集まりました。子ども連れなど各世代が参加する、和やかながら熱気に包まれた空間が広がりました。「原発をなくし、自然エネルギーを推進する高知県民連絡会準備会」が主催した「なくそう原発！3・11高知集会」。集会では、高知への避難家族、元東電社員、伊方原発運転差し止め訴訟弁護士、脱原発四十万行動のメンバーそれぞれが貴重な報告と呼びかけを行いました。原発への怒りとこれからの行動に思いをこめた発言は参加者の胸に響くものでした。午後2時46分に全員で黙祷した後、楽器隊を先頭にパレードに出発。思い思いのプラカードに手作りの横断幕、ギターや太鼓.....、もちろん草の家も賛同団体として加わっています。草の家総会の頃には日本中の原発が止まっていることでしょう。

とはいえ危機は続いています。福島第一原発の冷温停止を政治的に宣言した野田首相は、電力不足を理由に原発の再稼働を急ごうとしています。再稼働の本命は伊方原発（ほぼ中央構造線上にあるにもかかわらず）かもしれません。福島第一原発では、原因究明どころか被害の全容すらわからない大事故が今も進行中なのに、命より経済を優先する.....、私たちはなんという国に生きているのでしょうか。

そもそも原発は放射性廃棄物を果てしなく生み出し、その最終処分問題はまだ根本的な解決方法がありません。廃炉解体も既存の技術だけでは難しい。放射能は何世代にもわたって健康被害を与える危険性があります。地震列島に数多くの原発を作ってしまった私たちは、子どもや孫や、そのまた子どもたちの世代に多くの負の遺産を残してしまいました。もうこれ以上増やせません。

先の戦争と同じように、原子力政策は国策でした。それは誰かを犠牲にして成り立つものでした。もう許してはいけません。いろいろな手を尽くして、これ以上次世代にツケを回さない行動を一人一人が考えましょう。



3/11 集会の様子